

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital News



独立行政法人
国立病院機構 大阪医療センターニュース

このニュースは、年4回、大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは地域医療連携室までお寄せください。

No.57
平成29年8月

目次

地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ 2
- ・ 講演会のご案内 2

病院のトピックス

- ・ 加藤健志下部消化管外科科長 着任のご挨拶... 3
- ・ 第58回 おおさか健康セミナー報告 4
- ・ アドベンチャーホスピタル 5
- ・ 『明治天皇聖蹟碑』の復元及び設置について ... 9
- ・ 脳卒中・循環器疾患における
ホットラインのご案内..... 11
- ・ NHO PRESS
「国立病院機構通信」について 11



独立行政法人
国立病院機構

大阪医療センター

地域医療連携室

平成29年8月発行 57号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL.06-6946-3516 ☎0120-694-635 FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/> [E-mail] comonh@onh.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）



- 正しく
- 品よく
- 心をこめて

2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職 名	氏 名	異動内容
H29.5.1	消化器内科医師	赤坂 智史	採用
H29.6.1	麻酔科医師	安藝 裕子	採用
H29.6.1	麻酔科医師	春原 真理	育休復帰
H29.7.1	感染症内科医師	来住 知美	採用
H29.7.1	眼科医師	辻野知栄子	採用

退職医師

異動年月	職 名	氏 名	異動内容
H29.5.12	感染症内科医師	笠井 大介	退職
H29.6.30	婦人科医師	酒井 美恵	退職
H29.6.30	眼科医師	山本 拓広	退職

講演会のご案内

開催日時	件 名	内 容	対象者
平成29年 9月28日(木)	2017年度 第3回オンコロジーセミナー	テーマ：未定 担当：薬剤部	医師及び 医療従事者
平成29年10月21日(土)	第42回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：耳鼻咽喉科・形成外科	医師及び 医療従事者
平成29年10月28日(土)	第60回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：呼吸器内科・呼吸器外科・放射線診断科・ 放射線治療科	一般市民
平成29年11月15日(水)	2017年度 第4回オンコロジーセミナー	未定	医師及び 医療従事者
平成30年 1月20日(土)	第61回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：口腔外科	一般市民
平成30年 2月17日(土)	第43回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：下部消化管外科・内視鏡室	医師及び 医療従事者

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂

アクセス 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

問 合 せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）



下部消化管外科科長 着任のご挨拶

4月1日より下部消化管外科科長を拝命致しました加藤健志でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。私は医師としてのスタートを当院国立大阪病院で切っております。平成元年7月から平成4年6月の3年間在籍し、外科医として基礎を叩き込んで頂きました。この様な当院で再度仕事をさせて頂くことができ、感慨無量でございます。

私の専門分野は大腸癌に対する腹腔鏡下手術、化学療法、内視鏡診断及び治療でございます。私が最も大切にしていることは患者様一人一人の病状と全身状態を考慮した治療を行うことでございます。それに加えて出来る限り体にやさしい低侵襲な治療を行って行きたいと考えております。このような考え方の基礎も当院の研修医時代に学びました。手術は腹腔鏡手術を基本としており、大腸癌症例の95%以上を腹腔鏡で切除しております。さらに患者様が最も心配される、永久人工肛門の造設を回避する、肛門温存手術も積極的に導入しております。また出来る限り小さな傷で手術を行い、さらに小さな一か所の創から手術を行うTANKO手術も導入しております。一方で手術が適応とならない切除不能な進行癌に対しては、最新の化学療法を駆使して腫瘍サイズを縮小し、化学療法後に多くの症例で切除可能となっており、20年前は生存期間の中間値が6ヶ月と抗がん剤が効かない代表であった大腸癌が、現在では転移巣まで全て切除できると、治癒まで望める様になっております。また日本型のPrecision Medicineの先駆けであるGI SCREENに当初から参加し、大腸癌領域における微小癌に対する個別化治療の確立と普及に努力したいと思います。

当院の下部消化管外科は関本貢嗣副院長、私、三宅正和医師、植村守医師と4人全てが日本内視鏡外科学会の技術認定を取得している、他には例のないスタッフに恵まれた施設でございます。また当院にはこの規模の病院では珍しく肛門科がございます。肛門科の宮崎道彦医師は肛門科のエキスパートで、当科と多くの症例で共同診療することにより、肛門周辺での治療困難症例に対しても的確な治療が可能です。治療困難な肛門周辺の症例も是非ご紹介下さい。この5人のパワーを集結して、一人一人の患者様を丁寧に診療させて頂き、最高の医療を提供させて頂きたいと思っております。今後とも多くの患者様をご紹介頂けますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター下部消化管外科科長 加藤 健志

第58回おおさか健康セミナー報告

国立病院機構大阪医療センター 皮膚科 科長 小澤 健太郎

平成29年4月22日（土）14時から第58回おおさか健康セミナーが大阪医療センター災害医療棟3階講堂において開催されました。今回は皮膚科の担当で「大阪医療センター皮膚科の診療紹介」をテーマにし、158名の方にご参加いただきました。

皮膚は体の表面を覆う臓器ですので、皮膚の異常は患者さんで自身が直接見ることも触ることもできます。患者さんが、受診の契機になることがあります。皮膚の疾患には様々な種類があり、軽微な疾患も多いのですが、今回は場合によっては入院や手術が必要になる疾患についての演題を3つ用意しました。

まず、皮膚科加賀野井朱里医師から「皮膚の感染症と乾癬」という演題で講演がありました。皮膚には体の内部を守る役割があり、体内に侵入しようとする細菌やウィルス、真菌などの病原体に常にさらされています。皮膚が傷ついたり、炎症を起こしたり、免疫力が低下したりするとこれらの病原体による感染症が起こりやすくなります。頻度の高い皮膚感染症である伝染性膿痂疹（とびひ）や蜂窩織炎、带状疱疹、足白癬、爪白癬について症状や治療を説明していただきました。また、致死的にもなり得る壊死性筋膜炎と蜂窩織炎の違いについても説明がありました。この他、参加者から事前にテーマとしてのご要望があった乾癬についても、疾患の特徴や重症度に応じて様々な治療法があることを説明していただきました。

続いて皮膚科小林佑佳医師が「下肢静脈瘤」について講演しました。下肢静脈瘤は遺伝的素因がある人に妊娠、出産、立ち仕事などが契機となり、下肢の静脈の弁不全により静脈血が逆流することによって発症します。治療には弾性包帯やストッキングによる保存的療法と高位結紮術、ストリッピング、血管内レーザー治療などの手術療法がありますが、最近は手術療法では血管内レーザー治療が主流になっています。それぞれ治療法のメリット、デメリットについて写真も交えながら説

明していただきました。

次に私が「皮膚のできもの（腫瘍）」と題してお話ししました。皮膚のできものという訴えで受診される患者さんを診察させていただくと、実際には皮膚腫瘍以外にも炎症性疾患や感染症による病変が結構含まれています。しかし、こうした病変を見分けて診断するのは、皮膚科医でも困難なことがあります。実地臨床でどのような検査をして正確に診断していくかを説明しました。また皮膚の良性腫瘍や悪性腫瘍には様々な種類があり、症状も多彩です。特に悪性腫瘍の中には初期にはわかりにくいものもありますので、代表的な皮膚腫瘍の症状や治療について実例もお示してお話ししました。

今回は講演と質問コーナーの合間に皮膚排泄ケア認定看護師の大澤真琴看護師から「お役立ち看護情報予防的スキンケア」として、皮膚を清潔に保ってスキントラブルを予防することの重要性や具体的な方法についての講演がありました。

2時間30分に渡るセミナーを熱心に聴講された参加者からは多くの質問をいただきましたが、時間の都合上講演者1人あたり1-2件ずつ回答させていただきました。

最後に本セミナーの企画、進行に協力していただいた方々、講演者、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。地域の先生方には今回テーマとして挙げた疾患も含めて、今後とも患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。

アドベンチャーホスピタル

副栄養管理室長 栄養士 越後 朋彦

栄養管理室では、今年度は「目で見て実感!!～食品にはこんなにたくさんの砂糖、油が含まれている～」と題して、実際に栄養指導時に使用するフードモデルや、各種のお菓子などを展示し、その食品、料理に含まれる炭水化物量を角砂糖に換算し積みあげ、また油はサラダ油を容器に入れ展示しました。学生、その親御さんに日頃の砂糖、油の摂取量に関して目で見て実感をして頂く趣向としました。

実は準備の段階でまず栄養士である我々も、数値としての各糖質の含有量は把握しているつもりでも、やはり実際に角砂糖で目に見ると見学者よりも先に驚きました。見学者はそれ以上に衝撃的だったようです。何と言っても普段何気なく摂取している米飯、カレー、麺料理の前に積み上がった角砂糖を目にされた時は、驚きの声上がるほどでした。学生よりも同伴されている親御さん、特にお父さん方が普段いかに糖質を過剰気味に摂取されていたかを実感されたようで、その食生活の振り返りに貢献できたのではないかと思います。



今年度の栄養管理室の展示は昨年までとは違った趣向を取り入れましたが、なかなか良い感触を得られましたので、来年は更なる工夫で見学者を驚かせる取り組みが出来ればと今から作戦を練りたいと思います。

臨床検査技師 大内 絵里子

臨床検査科では血液型判定検査や呼吸機能検査の体験や、顕微鏡でのスライドの観察、寄生虫の展示、臓器パズル、各部門の業務に関するパネル展示などを行いました。

今回は主に血液型判定検査を担当したのですが、体験にこられた方にわかりやすく、かつ興味を持っていただけるように説明することはとても難しいことだと感じました。また、テレビドラマの影響なのか病理組織の観察に興味を持たれる方も多かったように感じました。しかし、今回一番人気があったのは生きたアニサキスの展示で、アニサキスだけを見るために顔を出される職員の方もいらっしゃいました。

また、他の職種の体験コーナーなどを見学する時間があつたので、トリアージの体験や救急車の中の見学をさせていただきました。トリアージについては知っていたのですが、方法までは知らなかったのととても良い勉強になりました。また、救急車の中を見学したのは今回が初めてで、実際にどのような機器が装備されているのか知ることができ、良い経験をさせていただけたなと感じました。

今回のアドベンチャーホスピタルはあいにくの雨模様の中行われたこともあり、例年よりは訪れた方は少なかったようで、少し残念でした。しかし、今回初めてアドベンチャーホスピタルに携わり、少しでも多くの方に臨床検査技師はどのような仕事をしているのか知っていただければいいなと、そして、その中で興味を持って臨床検査技師を目指してくれる方がいればとてもうれしいと心から思いました。

外来副看護師長 齊藤 明音

6/25（日）病院外来ブースで行われた第8回アドベンチャーHpに参加しました。

生憎の曇り空でしたが、午前中は昨夕から降り続いた雨が上がっていたことで301名の参加をいただくことができました。

大阪医療センターに転勤して13年、初めての参加でしたので準備の段階からどんな風になるのか？心配でした。私は健康チェックと乳がん検診体験のブースを担当していましたが、「私高校で看護科にいます」「看護師か検査技師になろうと思って」と医療に興味がある高校生たちや「いつも血圧どんぐらいやったかな」とこの機会にチェックされるお父さんや「乳がん人ごとじゃないです」と真剣に自己チェックの説明に耳を傾けられる高校生、若いママたちで盛況でした。ほかのブースでも積極的な呼び込みや個性的な飾り付けでたくさんの経験とたのしい時間を過ごせた子供たちが帰っていく姿を目にすることができ、私自身も有意義な時間を過ごすことができうれしく感じています。

病院を知ってもらうこと、医療、看護の実際を経験してもらえることはなかなかない機会ですので、次年度も盛大に行いたいイベントでした。ありがとうございました。

診療放射線技師 伴 春奈

放射線科では例年通り、一般撮影室・CT室において装置の見学・検査の説明を行いました。また、診療放射線技師の仕事に興味を持ってくれた学生さんたちに向けての進路相談ブースも設置しました。今年は天候に恵まれず例年より訪問人数は少ない印象を受けましたが、その分ゆっくり丁寧に説明できたかと思います。

一般撮影室では、機器に触ってもらったり、実際の写真を見てもらったりしました。また、今年は同撮影室でサーベイメータの展示も行いました。見慣れない装置に、皆さんとても興味を持って話を聞いて頂きました。また、マンモグラフィー撮影室でも、装置の見学をして頂きました。昨今の報道の影響もあるのでしょうか、親御さんから乳がん検診について、積極的な質問をたくさん頂きました。

CT室では検査の説明のビデオや果物を撮影して

3D再構成した画像を観て、当院のCT装置でできることを知ってもらいました。また、メーカーさんのご協力を頂き、CT装置のカバーを外して装置内部の見学も行いました。なかなか見ることでできないCT装置の内部構造にお子さんから学生さん、親御さんまで圧倒された様子でした。3D再構成画像を用いて、なんの果物を撮影した画像かを考えてもらうクイズはお子さん方に好評で、楽しくCTの仕組みや3D再構成の意義を学んで頂けたかと思います。



進路相談には学生さんだけでなく、親御さんにもお越しいただき、大学や専門学校への進学や、就職先、職務内容など幅広い質問を頂きました。正直なところ、知名度のある職業ではないと思っていたので、知ってもらえたり、目標にしておもらえたりしたことに驚きました。この学生さんたちと、数年後に病院実習や就職でまた再会できるのかもしれない、と思うとなんとも言えない高揚感がありました。今後もこの企画が、お子さん達や学生さん達の夢へのきっかけになれば嬉しいと思っています。

麻酔科医師 石井 裕子

今年は初めてアドベンチャーホスピタルの麻酔科リーダーを担当しました。

手術室では外科手術体験プログラムが催されました。このプログラム内は①縫合糸による結紮体験、②人体モデル「ハートシム」での気管内挿管体験、麻酔器の説明、AED蘇生体験、③整形外科関節手術体験、④内視鏡トレーニングボックスでの鉗子操作トレーニング、⑤超音波凝固切開装置「ハーモニックACE」の操作体験、⑥ステープ

ラー体験、の6つのセッションに分かれており、事前に希望した中学高校の学生さんが対象です。6名のグループ6つが各セッションを25分(移動5分を含む)ずつかけて回りました。

例年通り、麻酔科は外科手術体験プログラム内の②のセッションを担当しました。

麻酔科のセッションでは、まず麻酔体験として、人体モデルを患者さんに見立てて、麻酔科医が実際にやっているように患者さんに声かけをしながら入室から麻酔の導入、挿管をしていきます。更にその中で麻酔器やモニターの説明をしている際にハートシムをパソコンで操作している別の麻酔科医がこっそり心電図の波形を洞調律からVF波形へと変化させて、直ちに除細動を！というダイナミックな流れを体験してもらい、そこから改めて気管支ファイバーを用いて気管支模型を覗いたり、喉頭鏡(今年はマックグラス)を用いて挿管をしてもらいました。実際の麻酔の流れを見てもらってからなので、ほどよく緊張も解けて、皆さん目を輝かせながら挿管やAED蘇生体験の中での心臓マッサージをやってくれていたのが印象的でした。写真撮影まで含めると25分があっという間でした。

これをきっかけに、学生さんたちが医療(贅沢を言えば“麻酔科”)により一層興味を持ってもらえたら幸いです。





冒険・発見・感動！

アドベンチャー ホスピタル[®]2017

in 大阪医療センター

クイズラリー
訪れる先々でクイズを解きながら
正解した人にプレゼント進呈！

**スタンプラリーで
めぐる
病院探検！**

**顕微鏡でPS細胞を
見てみよう！**

**2017年
6/25日 10:00~15:00**

(ところ) 大阪医療センター
大阪市中央区法円坂2丁目1-14 (地下鉄御幸4丁目11番出口)

(参加資格) 中学生、高校生、保護者など家族同伴も可能です。
※ただし、一部のイベントは人数制限があるため事前の予約申込が必要です。

●主催 国立病院機構 大阪医療センター ●問合先 TEL 06-6942-1331 (担当/ 庶務班長 小林)

病院内の診断から治療までを体験しよう

- ・人体モデルで臓器体験や麻酔体験をしよう！
- ・外科手術を体験しよう！
- ・自分の心臓の音を聞いてみよう
- ・心臓病の治療（カテーテル治療）を体験してみよう
- ・看護の仕事体験しよう
- ・お薬を作ってみよう
- ・X線画像の原理やCT装置の見学をしよう
- ・A型？B型？血液型ってどうやってわかるの？
- ・体験肺機能検査！〜肺活量を測ってよう！〜
- ・臓器の（フルゲーム）『臓器がわからないぞう！』
- ・白血球体験
- ・これが血液細胞だ！癌細胞だ！病原体だ！寄生虫だ！
- ・食のプロフェッショナル、栄養士の仕事をのぞいてみよう！
- ・リハビリの仕事を実際に体験してみよう
- ・手術室で医療機器に触れてみよう！

色々な体験をしよう

- ・リバー・ママ・シニア体験
- ・ベビー人形を使ってだっこやあひつ交換を体験しよう
- ・お年寄りや妊婦さんの体験をしよう
- ・災害の時に人を助けるためになにをしたらいいの？
- ・DMAT隊員のユニフォームで記念撮影
- ・災害救助について学び、体験してみよう！
- ・血圧測定、身体測定等の体験をしよう
- ・採血の体験をしよう
- ・お医者さん、看護師さんのユニフォームで記念撮影
- ・臨床心臓体験、心理検査を体験しよう！

病院を満喫しよう

- ・ドクターカーの見学と記念撮影
- ・災害のための病院の備えを見てみよう

顔について

- ・くすりができるまでの道のり
- ・「ちけん君」が今年もやってくる！

学習体験

- ・オープンキャンパス
- ・公開授業

割引販売

- ・カフェ/パン室
- ・パウンドケーキ

『明治天皇聖蹟碑』の 復元及び設置について

企画課業務班長 倉貫 弘務

当院の新病院建設予定地（現在の南側一般駐車場付近）では、昨年3月より本年1月まで、文化財保護法第93条第2項の規程に基づき、全面建替等更新整備工事着手に先立つ発掘調査を実施していました。

この場所は、後期難波宮の朝堂院（様々な朝政や儀式が行われた場）西方にあたるとされており、今回の発掘調査の結果、後期難波宮の官衙（役所）と『五間門区画』と呼ばれる施設の一部が発見されました。

後期難波宮は、726（神亀3）年から聖武天皇によって造営が始められた宮殿で、732（天平4）年頃には完成したとされています。

これまでの40年以上にわたる調査によって、内裏、大極殿、朝堂院など中心部分の構造はほぼ解明されていますが、周辺に展開する官衙はこれまで発見されておらず、今回が初めての発見であったということです。

今回発見された建物跡は、朝堂に比べると小型で簡素であることから、実務的な役所（曹司）に当たるものと考えられるとのことです。

『五間門区画』は宮の西方にある区画で、東側に格式高い五間門が2棟設けられていることからこの名がありますが、今回の調査では、南側の区画施設が発見され、そのおおよその規模が判明してきたとのことです。

五間門は宮城正門など重要な門に用いられることから、この区画も天皇が出御するような重要施設と考えられ、平安京の饗宴施設である豊楽院と同様な施設とする見方もあるそうです。

また、今回の発掘調査では、難波宮以外の遺構として、中世の大名屋敷や町屋跡、近代の旧日本陸軍歩兵37連隊本部の防空壕や石組溝等も出土しています。

そしてその中には、1928（昭和3）年に大阪



市青年聯合団が建立した、『明治天皇聖蹟（せいちょう）碑』と呼ばれる石碑も含まれていました。

大阪市青年聯合団は、「義務教育終了から20歳までの青年を指導する組織を市町村単位で設置すべし」という国の訓令を踏まえて、1917年に大阪市が設置した青年を統制する団体です。青年団は婦人会や在郷軍人会などとともに、第二次世界大戦期の翼賛体制のもと、国民を統制・動員する組織として重要な役割を果たしたとされています。

この石碑が建立された背景には、1925年に東成郡と西成郡を編入した大阪市域の拡張にあわせて、新たに大阪市となった周縁部における青年団を大阪市青年聯合団に取り込み、改めて組織化していく必要があったことがあげられるそうです。

青年団の組織が市域拡張に伴い大きくなるにあたって、組織化のための求心力を得る象徴的な存在として、明治天皇の大阪市域における事跡を顕彰する事業が立案され、旧市域と周縁部の青年聯合団組織が共同で、全30基の石碑を建立したとのこと。

全30基のうち、28基は定型化した1メートルほどの高さの石柱であり、天保山と天王寺公園に建立された2基のみデザインも特別で大きなもの

でしたが、現在は、天王寺公園の石碑をはじめ、その半数が失われているそうです。

大阪市教育委員会によると、これらの石碑は、第二次世界大戦に至る過程で、国民の統制に重要な役割を担うことになる大阪市青年聯合団と大阪の近代史の関係を語る重要な史料であり、歴史資料としての文化財的な価値も高いとのこと。

今回出土した石碑は、2基ともに真中から折れた状態で土の中から発見されましたが、今般、病院北東角の歩道沿い植込み（病院敷地）に、破損部分を修復のうえ、当該石碑を復元、設置することとしました。

復元した石碑の横には、大阪市教育委員会による解説パネルも併設しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧下さい。

最後に、今回発見されました後期難波宮に関する遺構については、大阪市教育委員会より現状（地中）での保存を指示されていることから、該当箇所は埋め戻しを実施したうえで、全面建替等更新整備工事については、その一部を見直し、今後改めて計画していくこととなりましたことをご報告いたします。

脳卒中・循環器疾患におけるホットラインのご案内

当院では、主に救急隊からの脳卒中・循環器疾患による患者搬送を受け入れできるよう、脳卒中・循環器ホットラインを設置しておりますが、本ホットラインは救急隊からの要請に限定したのではなく、広く各医療機関様からのご連絡も24時間お受けできる体制を取っています。

貴院かかりつけ患者様あるいは救急搬送された患者様で、脳卒中・心臓・大血管疾患の急変等が起こった際の搬送先として、当院のホットラインをぜひご活用ください。



独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター

〒540-0006 大阪府大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL: 06-6942-1331 (代)

循環器ホットライン

06-6946-3544

循環器疾患24時間対応します。

脳卒中ホットライン

06-6946-3543

脳血管疾患24時間対応します。

NHO PRESS ～国立病院機構通信～について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO: National Hospital Organization）という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



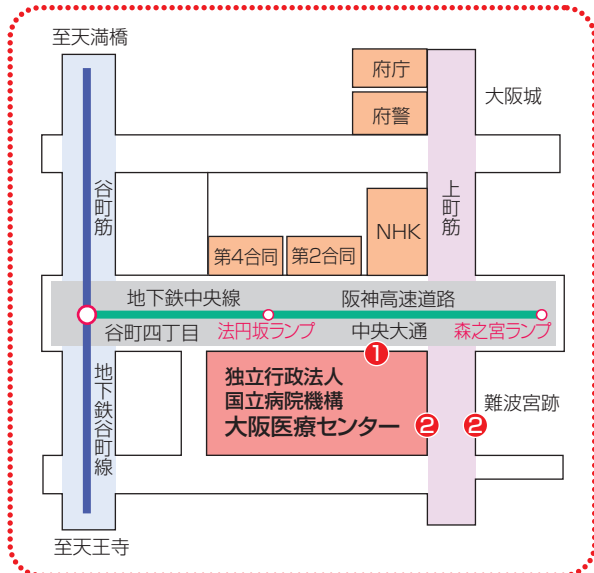
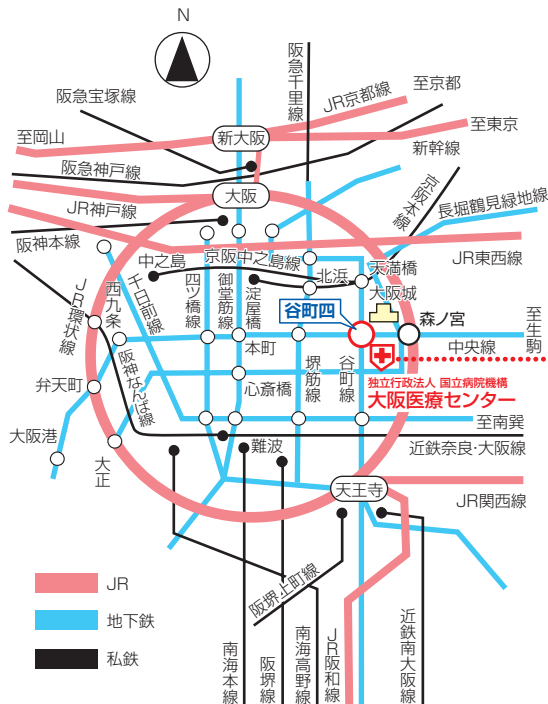
QRコード



NHO PRESS

検索

交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え
「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バ ス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。

・新病院建設工事の為、入口は中央大通り沿い（北側）、
出口は西側の一方通行となっておりましたが、
平成29年5月1日より出入口は上町筋（東側）になります。

・北側入口は封鎖されますのでご了承下さい。